

クラス	TU315A	担当教員	遠藤由美
テーマ	子どもとおとなが育つ教育福祉 ― そだちあいの「社会的養護」 ―		
著書・論文 研究課題等	研究課題：教育福祉問題研究 著書論文等：「戦後日本の養護施設の系譜―合宿教育女の成立と転換―」『児童福祉法研究』10 「教育と福祉の権利の展開」『子どもの権利研究』7 「児童養護施設における養護・養育と保育」『季刊 保育問題研究』250 『児童養護と青年期の自立支援』『児童養護と養育研半世紀の歩み』などに論文掲載		
ゼミナール概要			
キーワード：教育福祉、学びあいとそだちあい、つながる、貧困・養護問題、教育と福祉の権利の統一的保障			
目的、内容、方法、授業計画等： 私は、学生時代、児童養護施設の子どもたちが高校進学して学びたくても、経済的な理由や施設の条件などから学べない実態に出会いました。中卒で就職せざるを得なかった人の中には、転職を繰り返し、施設からは連絡がとれなくなってしまった人がいました。学びたい子どもたちが学べる条件づくり、それが求められていると思い、児童養護施設の保育士さんや児童指導員さんたちと研究会活動をするようになって、30年以上たちました。 研究運動の取り組みのなかで、子どもたちの条件が前進した面もありますが、未だに安定した暮らしのできない人たちもたくさんいます。<u>家族の貧困、子どもの貧困、実践の貧困、制度の貧困が問題</u>です。私にとっては、社会的養護のなかで生きる人たちが学びを深め、生活を切り拓いていけるような条件を考え作っていくことが、ライフワークになりました。 今、これまでの経験をふまえ、<u>子どもとおとなが共にそだちあう存在だととらえ、子どもが育つためにおとなができること、おとな同士の関係形成、子どもとの関わりをとおしておとなが学ぶことに注目</u>しています。 2020年度のゼミは、文献検討と実践交流の2本立てとします。見学を実施するかどうかは、ゆっくり検討します。子どもに関わる専門職に就く者として、自分自身を問い直し、以下の課題に取り組みます。 (1) 児童養護施設等の実践記録、有村浩『明日の子供たち』、遠藤編『そだちあいの社会的養護』（2020年6月刊行予定、現在鋭意執筆中）を読み、養護実践について検討する。 (2) 現場との交流を深めるために、ゼミ時間以外に、現場職員との研究会（全国児童養護問題研究会、遠藤ゼミ卒業生との合同学習会）で学ぶ。			
担当教員からのメッセージ			
ゼミでは、自前のことばで考え、表現すること、ゼミメンバーと協力して課題に取り組むこと、現実から学ぶことをたいせつにします。さまざまな人たちの意見は大切に、学んだり参考にしたりすることはおおいにやってほしいことですが、そのまま「うのみにする」ことは避けたいものです。自分なりに他の意見や説をどうとらえていくのか、自分がどう感じるのか、考えるのかを大切に、表現してください。 せっかく福祉大の子ども発達学部に来てきて、遠藤ゼミを選択するならば、それをいかして、教育福祉を学んでください。<u>講義「教育福祉論」の受講に加えて、</u>ゼミ活動で考えあうことを楽しみにしています。 合宿や研究会参加もしますので、お金もかかります。準備をしておいてください。少なくとも2020年6月末予定されている <u>全国児童養護問題研究会全国大会 in 名古屋</u>では、<u>学生スタッフとして参加</u>し、学ぶことを求めます（施設実習と重ならない学生のみ）。 エントリーに当たっては、ゼミオリ時の他に、必ず面談にきてください。問題関心をきいた上で、受け入れを検討します。			